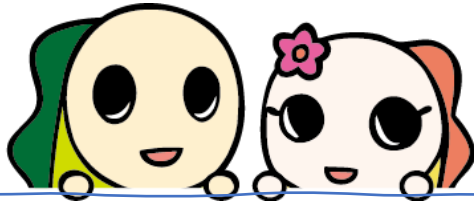


# すぎなみ大人塾 すぎなみU30ミーティング 2025 記録集



学 び を 通 っ て

あ た ら し い つ な が り を

み つ け よ う ！

# はじめに

令和7年度は、杉並区立社会教育センター主催の成人学習支援事業として、「すぎなみ大人塾」3コース及び「すぎなみ U30ミーティング」を実施しました。また、すぎなみ大人塾卒業生の集まりであるすぎなみ大人塾連は、共催事業として地域でさまざまな活動を展開するとともに、5月には、大人塾まつりを盛大に開催しました。

「大人の放課後」を共通のキャッチフレーズとして、21年目を迎えたすぎなみ大人塾。同じ内容を繰り返すのではなく、時代の変化や地域のニーズ、講座修了生の声を大切にしながら学習支援者やコーディネーターとの検討を重ね、企画内容や運営方法を毎年リニューアルしてきました。これによって、“うまくいったこと”はさらに前へ進め、“いまひとつだったこと”はもう一度掘り下げて考え、再チャレンジしています。

この記録集は、令和7年度の成人学習支援事業を振り返り、成果や課題を明らかにしておりますため、より良い事業を実施するうえでのヒントが隠されていると思っております。それゆえ、この事業に関わった方と共有するにとどまらず、社会教育活動を実践されている方にもぜひ、ご一読いただければ幸いです。

令和8年5月  
杉並区教育委員会事務局  
地域の学び推進課 社会教育センター

# 目次

成人学習支援事業の概要	3
すぎなみ大人塾 総合コース「ゲンゴカ・ラボ」	9
すぎなみ大人塾 地域コース「久我山～浜田山コース」	25
すぎなみ大人塾 はじめの一步コース	43
すぎなみU30ミーティング	57
オプション企画「大人の学びを考える」…次の一步を見つけよう…	73
すぎなみ大人塾連の活動	79
“資料編” これまでの講座一覧	91

記録集は、杉並区教育委員会のホームページで、PDFファイル（カラー）でもご覧いただけます。



# 成人学習支援事業の概要

すぎなみ大人塾

すぎなみ U30 ミーティング

オプション企画



## 1. 事業名

成人学習支援事業（杉並区立社会教育センター主催）

- ・ すぎなみ大人塾 3コース（総合コース、地域コース、はじめの一步コース）
- ・ すぎなみU30ミーティング
- ・ オプション企画

## 2. 事業の概要

### すぎなみ大人塾

「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける“大人の放課後”」をキャッチフレーズとしたすぎなみ大人塾。平成17年度の試行を経て、平成18年度から杉並区立社会教育センター主催事業として実施してきました。また、平成29年度以降は、参加者のすそ野をより広げるため、受講を修了した方々の協力を得ながら、身近な地域での学びと活動が循環することを目指し開催してきました。

令和7年度は、総合コース、地域コース、はじめの一步コースの3コースを開催しました。

各コースに共通する特徴は、学習支援者という役割を置いていることです。学習支援者は、コースの参加型学習内容の組立てや受講生同士の話し合い活動を活発にする進行（ファシリテーター）の役割を担います。

地域コースでは、学習支援者のほかに学習支援補助者（久我山～浜田山コースにおける「学びあいの伴走人」）にもご協力いただいています。学習支援補助者は、受講修了者や既に地域活動をおこなっている方で、受講生と地域の活動をつないでいきます。

受講修了後は、卒塾年度を超えたネットワーク組織「すぎなみ大人塾連」（p.79～88参照）で自主的に活動しています。毎月行われているすぎなみ大人塾連世話人会（以下、「世話人会」という）では、それぞれの活動について情報を共有し、すぎなみ大人塾連として主催する講座・イベント等についても話し合います。

### すぎなみU30ミーティング

30歳以下の若い世代を対象に、職場や学校以外の場でつながりをつくり、地域に関わるきっかけを生み出すことを目指し、令和5年度からスタートしました。

若い世代が「おもしろそう」「行ってみようかな」と思えるような講座テーマの設定を心がけています。若い世代の受講生が、講座を通して培った経験を、仲間づくりや地域に対する関心へつなげていくことができるよう、地域向けのイベントを企画する内容としました。

### 3. 各講座の実施状況

講座名	開催日程	回数等	参加
すぎなみ大人塾 総合コース 「ゲンゴカ・ラボ」	令和7年9月4日～ 令和7年12月5日 木・金曜日 19:00～21:00	全7回 (主に月1～2回) ※第3回は諸般の事情により中止	60人
すぎなみ大人塾 地域コース 久我山～浜田山コース 「コミュニティデザインって!?実践編 ～スモールプロジェクトをやってみよう!～」	令和7年7月5日～ 令和8年1月31日 土曜日 9:30～12:00	全7回 (月1～2回)	36人
すぎなみ大人塾 はじめの一步コース 「ワクワクからはじまる 大人の放課後デビュー」	令和7年6月28日～ 令和7年12月6日 土曜日 主に10:00～12:00	事前お試し会 (5月31日) 全6回 (月1回)	23人
すぎなみU30ミーティング 「すぎなみ みんなの大運動会プロジェクト」	令和7年6月15日～ 令和7年12月13日 土・日曜日 13:30～16:30	座談会形式の説明会 (5月25日) 全8回 (月1～2回) 運動会実施を含む	22人
オプション企画 「大人の学びを考える」 …次の一步を見つけよう…	令和8年3月1日(日) 13:00～15:15	全1回	31人

次ページのイメージ図は、区公式ホームページからご覧いただけます。

[https://www.city.suginami.tokyo.jp/s113/7877.html?utm\\_source=search-pageID](https://www.city.suginami.tokyo.jp/s113/7877.html?utm_source=search-pageID)



# <社会教育センター成人学習支援事業展開イメージ>

目指す先 ⇒ 杉並区教育ビジョン2022「**みんなのしあわせを創る杉並の教育**」

みんなが共に教育を創る ⇒ 子どもも大人もすべての人が教育の当事者

## 社会教育士

まちの中で、人づくり、つながりづくり、地域づくりが進むようコーディネート

## 次世代への還元

- ・学校運営協議会委員
- ・サイエンスフェスタ実行委員
- ・子ども食堂などの居場所づくり

地域とのつながり、  
広がりを支援

## 地域づくりの担い手

- ・コミュニティスペースの運営
- ・地域区民センター協議会委員
- ・きずなサロンの運営

## すぎなみ大人塾連

- ・卒業年度を超えて交流、発信
- ・「大人塾まつり」や主催講座
- ・社会教育センターとの協力

## 地域での実践



### 仲間と信頼関係を築き、外に向けて発信

- ◎講座から始まる「スピンオフ（番外編）」を大事にし、仲間やまちとつながっていく
- ◎受講後の自主グループへ発展して活動する

個人・グループ・地域がゆるやかに結びつ

学びと活動が  
循環する  
成人学習事業

## 「杉並」を知る



### 参加者同士の話し合い・聴き合い

- ◎学習支援者に支えられた相互学習の中で「杉並」を知る
- ◎自分も「杉並」を創る一人だと気づく

まちのこと・まちの中の自分を見つける

## 大人のたまり場

### 多彩な学習支援者・ゲスト講師による講義やワークショップ



- ◎“普段の仕事”や“社会的な役割”を離れ、自分は何ができるか、何がしたいか考え振り返る
- ◎志を同じくする仲間をつくる

気になること・やってみたいことが見えてくる

住んでいる地域の  
ことをもっと  
知りたい！

人や地域の役に  
立つことをした  
いな・・・



講座に参加したら  
できるかも！



すぎなみ大人塾

総合コース

# ゲンゴカ・ラボ

学習支援者 伊藤 剛





## 2. 実施状況

◇講座（全7回） 時間：19：00～21：00

会場：セッション杉並

◇学習支援者：伊藤 剛（〔株〕アソボット代表取締役）

◇メイン講師：熊谷 晋一郎（医師/東京大学先端科学技術研究センター教授）

	日	内容	学習支援者 & 講師	参加
1	9月4日（木）	イントロダクション	伊藤 剛 熊谷 晋一郎	50人
2	9月12日（金）	「認識的不正義とは 何だろう？」	佐藤 邦政 (茨城大学大学院教育学研究科 講師)	47人
3	9月25日（木）	ことばの語用論 「コミュニケーションが 不正義になる時」	三木 那由他 (大阪大学大学院人文学研究科 講師)	中止
4	10月16日（木）	ことばの統語論 「文法が不正義になる時 ～中動態の世界～」	國分 功一郎 (東京大学総合文化研究科 教授)	36人
5	10月30日（木）	特別講座 「AIは誰のことばを学んでい るのか？～AIと不正義～」	板津 木綿子 (東京大学大学院情報学環・ 学際情報学府 教授)	35人
6	11月20日（木）	ことばの意味論 「日本語における不正義 ～近代翻訳語と語釈～」	間淵 洋子 (和洋女子大学人文学部 日本文学文化学科 准教授)	34人
7	12月5日（金）	クロージングセッション	伊藤 剛 熊谷 晋一郎	32人

## 3. 受講生データ（年代内訳）

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
10人	11人	8人	13人	13人	2人	3人	60人

## 4. 講座内容の紹介

### 第1回

### イントロダクション

日 時：令和7年9月4日（木）19：00～21：00

参加者：50人

会 場：セッション杉並

学習支援者：伊藤 剛

メイン講師：熊谷 晋一郎

#### 【講座内容】

はじめに、講座の主旨やカリキュラムの詳細についての説明がありました。今年度の講座は、「いかに日常的な言葉がマジョリティ向けに作られているかを学び、社会の言葉をインクルーシブにするためのヒントを探ること」が目的です。

近年、自分の気持ちや経験を言葉で表す「言語化」がさまざまなところで聞かれるようになりました。しかし、一般的に建物や制度がマジョリティに向けてデザインされているのと同じく、普段使っている言葉もマジョリティ向けであることによって、自分の中にある気持ちや経験を言語化し、伝達する仕組みから外れてしまうことがあります。こういった状況を「認識的不正義」と呼び、言葉の意味論・統語論・語用論といったどの分野においても認識的不正義は起きています。AIでさえも、多数派側の知識を吸収しやすいために、不正義が起きているともいわれます。この講座では、どのようなところに不正義が起きているのかを学ぶことで、自分の中にあるモヤモヤを言語化し、世の中にその気持ちや経験が伝えやすくなるということを一つの目的としています。

学習支援者・メイン講師のお話の後、これから一緒に学んでいく受講生同士で、自己紹介を兼ねたアイスブレイクも行いました。自分の特徴的な部分を表す「数」（例：1日の食事の回数7回、行ったことのある国の数78か国）を共有し、いつもとは少し違った視点で自分自身を表す体験をしました。



学習支援者  
伊藤 剛さん



メイン講師  
熊谷 晋一郎先生

## 第2回

### 「認識的不正義とは何だろう？」

日 時：令和7年9月12日（金）19：00～21：00

参加者：47人

会 場：セッション杉並

講 師：佐藤 邦政

#### 【講座内容】

今回は、ゲンゴカ・ラボの基礎となる認識的不正義について学びました。認識的不正義とは、物事の真理や人々の経験した事柄の知識の伝達や理解の共有が不当に妨げられることで、少数派や社会で周縁に追いやられがちな人々が被りやすいものです。認識的不正義には、大きく「証言的不正義」と「解釈的不正義」という2種類があります。証言的不正義は、誰かに言葉を聴いてもらう際に被る不正義です。例えば、会議中の発言でも性別によって言葉の受け止め方が異なり、女性の発言の方が信頼されにくいことがあります。このように聴き手も話し手へのジェンダーなどの偏見によって発言の信頼度が過度に低く、異なってしまう状態です。解釈的不正義は、経験を言葉にする際に被る不正義です。「DV」という言葉が使われる以前は夫婦内の痴話喧嘩と考えられてしまったように、自分自身の置かれている状況を適切に理解できず、そのせいで他者にも自分の状況を十分に説明することができない状態です。

講義終了後は、日々の生活の中で他者の話を聴いたり、聴いてもらったりする場面での認識的正義や不正義について、思い当たることや疑問に感じていたことなどを受講生の間で「問い」として書き出すグループワークを行いました。「子どもに認識的不正義を伝えるにはどうしたらよいのか。」「認識的不正義は収束するのか。」など多くの問いが各グループから生まれました。



佐藤 邦政先生



## 第3回 ことばの語用論

### 「コミュニケーションが不正義になる時」

日 時：令和7年9月25日（木）19：00～21：00

会 場：セッション杉並

講 師：三木 那由他

#### 【講座内容】

諸般の事情により中止。

## 第4回 ことばの統語論

### 「文法が不正義になる時 ～中動態の世界～」

日 時：令和7年10月16日（木）19：00～21：00

参加者：36人

会 場：セッション杉並

講 師：國分 功一郎

#### 【講座内容】

國分先生と熊谷先生による対談形式の講座でした。中動態とは、能動態・受動態のように「する」と「される」ではない表現のことです。例えば、能動態の「見る」は、中動態だと「見える」、同様に「聞く」「聞こえる」など、日本語には中動態の表現が多くあります。現在使われている言葉の多くは、マジョリティ向けに作られており、マイノリティの方の抱く感覚は、時に現在の言葉だけでは表現しづらい、表現できないことがあります。例えば、アルコール依存症の人が、状態が回復したときに、「お酒をやめた（能動態）」「お酒をやめさせられた（受動態）」でもなく、「お酒がやまった（中動態）」という表現がしっくりくるといわれています。これは、「雨が止んだ」のように、自然にその現象が起こったという感覚に近い表現です。このように、中動態は、日常的に使われている言葉では表せないようなマイノリティの方の感覚や現象について、表現できるようになる手段の一つであるといえます。

その他にも、責任の所在を明らかにすることと能動態・受動態・中動態が関係していることなどをお話いただきました。講義の後にはグループワークを行い、講義の内容について活発に話し合いを行いました。



國分 功一郎先生



熊谷先生との  
対談形式の講義

## 第5回 特別講義

### 「AIは誰のことばを学んでいるのか？」

#### ～AIと不正義～

日 時：令和7年10月30日（木）19：00～21：00

参加者：35人

会 場：セッション杉並

講 師：板津 木綿子

### 【講座内容】

チャットボットなど近年多く耳にするAI（人工知能）を活用した便利な仕組みは、客観的で正しいものと思い込んでしまいがちですが、ここにも不正義が存在しています。例えば、識別管理に使われているAIに人間の顔を判別させたときに、“白人で男性”の場合は100%判別できるのに対し、“黒人で女性”の場合は70%近くまで判別の精度が落ちるといった研究結果が開発当初にありました。これは、AIが読み込んで学習させられた言葉や情報に偏りがあり、マジョリティ側の思考を典型として打ち出してしまっていることから生じています。ほかにも、職業とジェンダーの関係などさまざまな面で不正義が起きていることや、生成AI技術を利用することによる環境への負荷などを具体事例とともに学びました。

後半にはグループワークも実施し、AIの導入を考える際に重要だと感じるポイントに優先順位をつけ、なぜそう思ったのかを共有しました。AI利用の当事者となりうる私たちが、AIにも不正義があることを理解しながら、どう付き合っていくかを考える機会になりました。



板津 木綿子先生



## 第6回 ことばの意味論

### 「日本語における不正義 ～近代翻訳語と語釈～」

日 時：令和7年11月20日（木）19：00～21：00

参加者：34人

会 場：セッション杉並

講 師：間淵 洋子

### 【講座内容】

近代翻訳語とは、明治時代以降、外国から日本に新しく入ってきた言葉を、一度漢語に翻訳した言葉のことです。例えば「道徳的な正しさ」「法律上の正しさ」を意味する英語の「right」は、日本語で「権利」と訳されます。しかしながら「権」や「利」には、「権力」「利益」といった言葉から「カづくの」「押しつけがましさ」「損得」のようなイメージがあり、「right」本来の意味である「正しさ」とのずれが生じています。このように、翻訳をしたことで、原語本来の表す意味を十分に理解することが困難になった不正義があります。

また、一見正しいと思われる辞書の語釈の中にも不正義は存在しています。「恋愛」の語釈はかつて「特定の異性に対して～」と記されていましたが、現在は「特定の相手に対して～」と変更されている辞書があります。このように、辞書の語釈は時代に合わせて変わり、およそ10年に1度改定されています。



間淵 洋子先生

講義後のグループワークでは、実際に辞書を引きながら語釈を検討していき  
ました。「嫁」「家族」などの言葉に着目し、世の中の状況とどのようなずれがある  
か、語釈をどう修正すればよいかを考えていきました。

## **第7回 クロージングセッション**

日 時：令和7年12月5日（金）19：00～21：00

参加者：32人

会 場：セッション杉並

学習支援者：伊藤 剛

メイン講師：熊谷 晋一郎

### **【講座内容】**

最終回は、これまでの学びを総復習することから始まりました。「認識的不正義」「解釈的不正義」「証言的不正義」「中動態」「AIとことば」「日本語と不正義」など、講座で扱ったキーワードに触れながら、印象に残った内容や関連するエピソードを受講生の皆さんに語っていただきました。今年度から導入した「ゲンゴカシート」も返却され、これまでの講義を一挙に振り返る時間となりました。

後半は“ゲンゴカ・ラボ的な辞書づくり”をする「ゲンゴカ・ワークショップ」を実施しました。受講生一人ひとりが、“ちょっと変わった辞書の編集委員”になったと仮定し、提示された選択肢の中から“モヤモヤを感じた言葉”を選び、その背景にあるエピソードを思い返しました。また、選択肢にない言葉についても、自分が違和感を覚えた言葉とそのエピソードをワークシート（詳細p.23）に書き出しました。

グループ内で言葉とエピソードを共有すると、「どんな言葉にモヤモヤを感じ、そこに解釈的不正義が潜んでいるのか」を発見でき、活発な議論が展開されました。全体発表では、多くの受講生が共感する言葉やエピソードが紹介され、新たな視点で言葉を捉え、自分の思いを言語化する場となりました。まさに“ゲンゴカ・ラボ”の名にふさわしいワークショップでした。



## 5. 成果

### 多様な分野の講義からの学び、そして自分の言葉でまとめる

ゲンゴカ・ラボでは、言葉に関するさまざまな分野の講師をお呼びし、講義を行っていただきました。多くの人が日常生活で当たり前で使用している言葉にも、さまざまな不正義があり、それらについて学ぶためには、多角的な視点で言葉について考える必要があるからです。文法、翻訳、AIなど2時間の講座で学びきれない内容ではありませんでしたが、とても濃い学びの時間になりました。

受講生の皆さんには「ゲンゴカ・シート」を各講座後に書いてもらいました。各講義で異なる視点・切り口から学ぶことを重視したからこそ、各回の学びや気づきを大切にもらい、最終回の振り返りでそれらを紐づけていければよいと考えました。講座の中で印象に残ったことと、その日の学びと関連した自分自身の経験を書くことで、自分ごとにしながら振り返るきっかけとなりました。

### グループワークを通して

各回の講義後には、グループワークを通して自分自身の意見・考えの共有をしました。講義の内容は学術的で専門性が高く、講義だけでは十分に理解できなかったとしても、学んだことや自分の考えを周りと共に共有することで、理解が進んだり新たな視点を見つけたりすることができたのではないのでしょうか。「他の受講生の話を聞くと、固くなりがちな思考がほぐされていくようで楽しかった」という声もありました。

また、日頃関わる機会が少ない世代や立場の方が一緒になってワークや話し合いを行うことも、成人学習や生涯学習の魅力の一つだと考えています。今後もグループワークをより効果的に活用し、取り入れられるよう検討していきます。

### 講座が終わってからの学び

最終回では、令和4年度の「ジブン・ラボ」を受講した方が中心となって自発的に結成した「ノリの里の会」についての案内がありました。「ノリの里の会」では、月に1回集まり、興味関心のある分野について、講師から講義を受けたり、それぞれが学んできたことをメンバーに共有したりしながら、地域の人同士でつながって学び続けています。ゲンゴカ・ラボの受講生の中にも、「ノリの里の会」への参加を申し込まれた方が複数おり、学びへの意欲の高さがうかがえました。また、講座内で学んだことを、復習したり、本を読んでさらに学びを深めたりしている受講生もいました。

どのような形であれ、講座が終わった後も学び続けようと思う受講生が多かったことは、学びが自分ごととして定着しつつあることを示しているのではないのでしょうか。

## 6. 課題と今後の取組

### 講座の時間設定

昨年度は各回 3 時間の開催でしたが、今年度は講義中心の講座としたこともあり、各回 2 時間の開催としました。しかしながら、アンケートでは、「ワークショップの時間が足りない」との声もありました。今後も、講義の内容を踏まえつつ、できる限り多くの方に参加していただける講座時間・日時の設定を検討していきます。

### アカデミックな内容をどのように区民講座に取り入れるか

各回アンケートでは、「内容がとても難しい」「十分に理解できるとは言えない」という回答が多くありました。各回のテーマはどれも専門性が高く、さらには、テーマごとに講師が違うことで、各回の内容を振り返るタイミングや、質疑応答の時間を十分につくることができなかつたためと考えられます。しかしながら、アンケートでは「難しかった」という回答と同じくらい、「とても充実していた」「もっと勉強したい」という回答も多くありました。区民講座で学問的な内容を取り扱うことは、大きな意義のあることです。ただし、ワークショップやグループワークなどの活用、講座内容の順番等を考慮し、受講生の理解がより深まるように今後も検討を続けます。

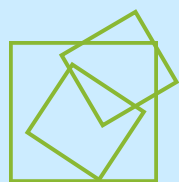
### 参加の継続率

今年度は60人の受講生がいたにも関わらず、最終回では、出席者32人と継続率の低さが目立ちました。理由の一つには、前述の通り専門性の高さや振り返りのタイミングや時間の不足により、継続して学ぶハードルが高くなってしまったことが考えられます。また、第3回の講座が中止となったことで約1カ月間講座がない期間が生まれ、モチベーションを保つことが難しかったことも要因として挙げられます。

プログラムの内容やタイミング、講座の開催期間について引き続き検討し、より多くの人に参加を続けていただけるよう考えていきます。

学習支援者から受講修了生へ

## メッセージ



学習支援者  
伊藤 剛  
株式会社アソボット



『ゲンゴカ・ラボ』を受講された皆さん、本当にお疲れさまでした。「言いたいことがうまく伝わらない」「同じ言葉を使っているはずなのに、なぜかすれ違ってしまふ」。そんな日常の中の小さなモヤモヤを手がかりに、私たちは「ことば」を起点とした社会の構造を探ってきました。

本講座の中心にあったのは「認識的不正義」という考え方です。社会で共有されているはずの言葉が、ある人の経験を正しく捉えきれず、理解されないまま置き去りにしてしまう。発言する人の背景や社会的カテゴリーによって、伝えた通りに受け止めてもらえない。そんなコミュニケーションの不均衡を、言語学のさまざまな知見で見つめ直してきました。

扱ったテーマは決してやさしいものではなかったと思いますが、講義やワークを通して交わされた、皆さん一人ひとりの問いやモヤモヤが、このラボを確かな学びのコミュニティにしてくれたと感じています。そして、ことばは誰かと共に考え続けることによって、少しずつインクルーシブなものへと編み直されていくものだ、改めて私自身も確信することができました。

今年度も講座の「映像教材」を制作予定です。皆さんが探求してきた試みが、これからの社会と皆さんの人生を豊かにする種になることを願っています。

※講座のアーカイブは、下記WEBサイトよりご覧ください。

<https://jibunlab.learningdesignlab.jp/>





## 受講生の声

### ゲンゴカ・ラボを受ける前と後でどのような変化がありましたか？

001 |

普段何気なく使っている言葉に対して、さまざまな切り口で見られるようになった。認識的不正義というこれまで聞いたこともなかったものに対する理解が若干なりとも深まった。

002 |

「ことば」の不正義が大きなテーマでしたが、講座を受ける前は、考えてみても具体的例が思いつきませんでした。しかし、毎回の講座を受ける中で、「ことば」は使う人によって、不平等であり、「ことば」そのものに私たちの偏見が含まれているのだともわかりました。つまり、「ことば」によって苦しんでいる、悩んでいる人がいるということを知りました。

003 |

今まで当たり前と思って使っていた言葉の中にも、不正義用語がたくさん潜んでいることを再認識しました。

004 |

表現することに困難を感じたとき、それは表現しようとする自分自身の技量の問題であることもあれば、表現しようとするのを妨げる周りの環境、制度や常識などの（排除の）問題でもあるのだと、人に語れるようになりました。

005 |

「言葉」にある歴史やミスリードを認識できた。「不正義」を頭では理解できるがいまいちピンとこない。何かもう少し自分に当てはまる言葉を考えていきたい。

006 |

講座を受ける前は、ぼんやりと認識的不正義を無くすためにどうするか？ということを考えるべきなのかと思っていました。講座を受けて、なにか一つの現象や問題が解決する事はあっても、認識的不正義はなくならないし、新たな問題が発生（と言うよりは、表面化）するのだろうかと思うようになりました。ただ、たくさんの方が認識的不正義というものがあることを知っておくことこそが、大事なのだろうと思いました。

講座全体に関する感想やご意見を、ご自由にお書きください。

### 001 |

全体が入口といった印象だった。これをきっかけに「認識的不正義」「不正義」「中動態」について学んでいきたいと思います。少し久しぶりに「ちゃんと勉強したい」という気持ちが芽生えています。

### 002 |

初めは「東大の先生の話をついでに聞ける。しかも家から近くのセッションで」という不純な動機で申し込みました(笑)。ただ、その時の決断が本当によかったと今、実感しています。

もちろん、2時間という時間では、なかなか知識の深堀をすることは難しいですが、それぞれの講座をきっかけに、自分で学び深めてみようと思い、関連書も購入して学んでいます。毎回行うグループディスカッションでも、同じ杉並区内の全く面識のない方々と話を交わすのは刺激的でした。同じ区内ですら、いろいろな立場、考えの人がいる。それでも話を交わすと、何かしらの共通理解を得ることができるとわかったのは、とてもよかったです。

### 003 |

初めてこういった生涯学習的なものに参加しました。事前に何かを調べたり、学習したりということほとんどせずに参加したのもあり、難しく思うこともありましたが、世界が広がって楽しかったです。

### 004 |

全講義通して本当に面白かったです。学びも多く、メモもたくさん取り、これから読みたい本も出てきて、参加して本当に良かったです。区民が参加するものなので、グループワークも普段接点のない世代の方と組むことも、とても新鮮でした。

### 005 |

認識的不正義という私の日常生活では耳慣れない言葉を知り、難しさを感じながらも何とか全回受講させていただきました。言語における不正義について、第一線の先生方からそれぞれの切り口で学ばせていただき、言語さえもマジョリティ向けにできてきたことを知り、視野を広げることができました。

モヤモヤしたことが語れない、伝わらない、理解できない時に不正義が起きているかもしれないことを今後は意識していきたいと思います。

### 006 |

毎回、グループの組み合わせを変えてくださったり、小ワークを準備くださったりと、講座になじみやすい工夫や、いろいろな人と話す機会を提供くださったと思います。受講生の世代もさまざまで、それはそれでコミュニケーションが難しい面（お互いに気を使わずぎてしまう傾向、など）もありましたが、でも、ポジティブな難しさだったと思います。

【資料】各回で使用したワークシート「ゲンゴカ・シート」

<h2>ゲンゴカ・シート</h2>	名前 _____
<p>本日の「認識的不正義とは何だろう？」で印象に残ったこと（学んだこと）は何ですか？</p>	
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"><p>1. _____</p><p>2. _____</p><p>3. _____</p></div>	
<p>本日の学びと関連する「自分自身の経験（エピソード）」はありますか？</p>	
<div style="border: 2px solid black; height: 120px;"></div>	
<small>スペースが足りない場合は、裏面をご活用ください</small>	

【資料】第7回クロージングセッションで作成したワークシート「ゲンゴカ・ラボ的な辞書づくり」

<p>ゲンゴカ・ラボ的な辞書づくり</p> <div style="border: 2px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div>	<div style="border: 2px solid black; height: 280px;"></div>
---	---

